

令和7年度第2回たつの市子ども・子育て会議
会議録（概要）

日 時	令和7年12月22日（金） 14:30～16:00
場 所	たつの市役所 多目的ホール

審議経過

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

- (1) たつの市こども・若者計画」の計画変更及び乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）の認可手続等について

事務局より説明 資料1

<利用時間と各園の設定について>

委 員： 資料では1人あたり「月10時間」という条件がありますが、これは園によって利用できる時間が異なるのでしょうか。それとも利用者の希望で自由に決められるのか。

事務局： 各園の状況によって、預かり可能な枠（設定時間）が異なる。イメージとしては、「A園は月曜午前に0歳児、火曜午前に1歳児を受け入れる」といった形で、各園が申請したスケジュールに基づく。今回の会議を経て詳細をオープンにするので、利用者はそれを見て自分の希望に合う園を選んでいただくシステムとなる。

<保護者への支援と交流の場について>

委 員： 子供にとって良い環境であることはもちろんだが、保護者のリフレッシュや

「子育て力の向上」という視点も重要である。預けるだけでなく、保護者同士がノウハウを共有したり、悩みを話せたりするような、既存の事業と連動した対策は考えているのか。

事務局： ご指摘の通り、孤立しがちな親御さんへの支援は不可欠である。本制度自体は「子供の育ち」に特化していますが、既存の「つどいの広場」や「児童館」での講座、親同士の交流会と連携していく。

最近土曜日に父親の利用も増えている（約3割）というデータもあるので、共働き家庭や父親向けの講座も含め、多角的に支援できる体制を整えたいと考えている。

<利用手続きと周知方法について>

委員： 手続きや周知についてはどう進めるのか。また、オンラインでの申請についても具体的に教えて欲しい。

事務局： 周知については、未就園児家庭を把握している強みを活かし、検診時のチラシ配布や SNS、ホームページで直接届ける。手続きに関しては、国が構築する共通システムを利用し、利用者がまずアカウント（ID）を取得し、スマホ等からオンラインで利用申請・予約を行う形となる。従来のように「電話をして空きを確認する」手間を省き、システム内で持ち時間（10時間）を管理・消費していく、利便性の高い仕組みを目指している。

<発達支援が必要な子への対応>

委員： 中には発達に課題があったり、子育てに困難を抱えている保護者もいるかと思う。10時間の利用の中で、園側が気づいた異変や様子を親にフィードバックしたり、専門機関へ繋いだりする体制はどうなっているのか。

事務局： 運営基準は通常の保育所等と同じ仕組みをとる。お預かりするお子さんごとに

計画を作成し、記録を残し、保護者と情報共有を行う。

初年度から完璧な体制を作るのは難しい面もあるが、1年間実施する中で現場の声を吸い上げ、課題を整理する。「預かって終わり」ではなく、必要に応じて適切な支援ルートへ繋げる仕組みをブラッシュアップしていくことが、この制度の重要な課題だと認識している。

<広域利用と制度の波及効果>

委員： この制度は市外の方も利用できるのか。また、入園前に長く利用することで、入園後の適応が早まるなどの効果も期待できると感じる。

事務局： この制度は市町村の枠を超え、全国どこでも利用可能である。保護者が園の方針をじっくり選び、納得して通わせるという選択肢が増えることになる。また、入園前からの集団体験は、指摘の通りスムーズな園生活への移行に大きく寄与すると考えている。

委員： 実際に子供園を利用している身として、入園前に園の様子を知り、親同士も話ができる機会があるのは非常に心強い。この制度は親として大変ありがたいものだと感じている。

委員： 各園の特色を活かしつつ、オンラインシステムの導入や、既存事業との連携、そして発達支援への目配りなど、課題を一つずつ整理して進めていく必要があると考える。

(2) 子育て支援制度レジストリについて

事務局より説明 資料2

<制度データベース（レジストリ）の利便性と期待>

委員： 現在、自分が知らない子育て支援制度がたくさんあると感じている。自分の属性（地域や子供の年齢など）を入力しておくことで、必要なタイミングで「今、この制度が使えますよ」とプッシュ型で教えてもらえる仕組みになれば、非常にありがたい。

事務局： 若い世代だけでなく、中学生・高校生などの将来世代や、他の自治体と比較検討する層にとっても、アクセスしやすい情報基盤（レジストリ）は重要だと考えている。

<情報セキュリティとデータ管理>

委員： アプリやデータベースを活用する際、個人情報の取り扱いやセキュリティについてはどのように担保されているのか。

事務局： 今回のレジストリに関しては、個人情報と結びついたものではなく、あくまで「ホームページで公開されている制度情報」を整理・提供するカタログのようなもののため、現時点の仕組では個人情報漏洩の心配はありません。ただし、今後アプリを通じて実際の申請を行う段階になれば、厳重なネットワーク管理と職員による情報管理を徹底する。

<教育・福祉分野の横断的な連携>

委員： 現在は福祉関係の情報がメインのようだが、将来的に教育分野（不登校やひきこもり支援など）の情報とも繋がっていくのか。

事務局：自治体によって担当部署（教育委員会か福祉部門か）は異なりますが、このシステムでは「キーワード検索」が可能となっている。分野で分けるのではなく、利用者が「困りごと」で検索した際に、分野を横断して必要な制度にたどり着けるようになるのがこのレジストリの目指す姿だと感じている。

<デジタルとアナログ（紙媒体）の併用>

委員：小中学校でもデジタル化（連絡網システム等の導入）を進めているが、保護者からは「学校からの情報が届いていない」という声が依然としてある。特に、不登校傾向にある家庭などは情報から孤立しがちである。デジタルを推進しつつも、情報の届きにくい層に向けては、従来通りの紙媒体（チラシの全戸配布）や対面での丁寧な説明を併用していく必要がある。

委員：便利になればなるほど、情報過多で見落としてしまう（メールやLINEが埋もれる）という課題もありますね。ショッピングセンターなどの生活圏での掲示など、多様なチャンネルで「気づき」を与える工夫が必要です。

<個別支援と多文化共生への配慮>

委員：アプリで情報を知ったとしても、自力で申請や利用に結びつけるのが難しい方々もいる。（外国籍の保護者（言語の壁）、知的・精神的なサポートが必要な方、経済的・心理的に余裕がない家庭など）
こうした「リスクの高い家庭」や「声を上げられない方」にこそ情報を届けるため、行政の各部署や社会福祉協議会が連携し、切れ目のない個別サポートをセットで行うことが重要である。

<精神保健・未然防止への視点>

委員：専門的な視点から言えば、思春期・青年期の悩みや孤立は、将来の精神疾患のリスクにも繋がる。こうしたアプリや情報提供が、単なる事務手続きの効率化

だけでなく、誰にも相談できずに悩んでいる人が「助けて」と言える最初のきっかけになることを期待する。信頼関係というソフト面と、デジタルの利便性をセットで積み上げていくことが、たつの市の目指す方向だと考える。

4 その他

5 閉会